

東大阪市支援教育研究会 実践交流会報告

(兼 中河内支援教育研究会)

東大阪市にある社会教育センターで、2月9日(火)に中河内支援教育研究会の発表を兼ねた東大阪市支援教育研究会の実践交流会が行われました。当日は、東大阪市立池島小学校の森本比呂志先生、松本悟之先生と池島中学校の松本光三先生から取り組みが報告されました。

まず、池島小学校の先生方から「子どもたちとのかかわりの中で見えてきたもの」というテーマで話がされました。様々な障害がある児童についての報告の後、支援学級で一人ひとりの児童に合わせた手作り教材の話がありました。また、幼、小、中学校が連携することで、各校からの情報が入り、個別の支援の計画がスムーズに作れるという話がありました。その後、大縄とびの取り組みについての報告がありました。支援学級の児童と通常学級の児童を共に遊ばせたいという目的で始めたそうですが、友達とのコミュニケーションをとるのが苦手な児童が多い中、一緒に大縄とびをすることで、自然と子ども同士の間がなりが出来たという報告がされました。

次に、池島中学校の松本先生が「Aちゃんとともに歩んだ3年間」というテーマで報告されました。まず、Aちゃんのお母さんから、Aちゃんの生い立ちの手紙があり、大きくなるにつれ、1つ1つの出来事に対する親の思いがにじんでいて、聞いている者の胸が熱くなりました。それから、Aちゃんと共に歩む中で、信頼関係、仲間づくり、自己肯定感などを育む大切さについて話がありました。時間ぎりぎりまで実践的な話をしていただき、とても有意義な報告会でした。

